



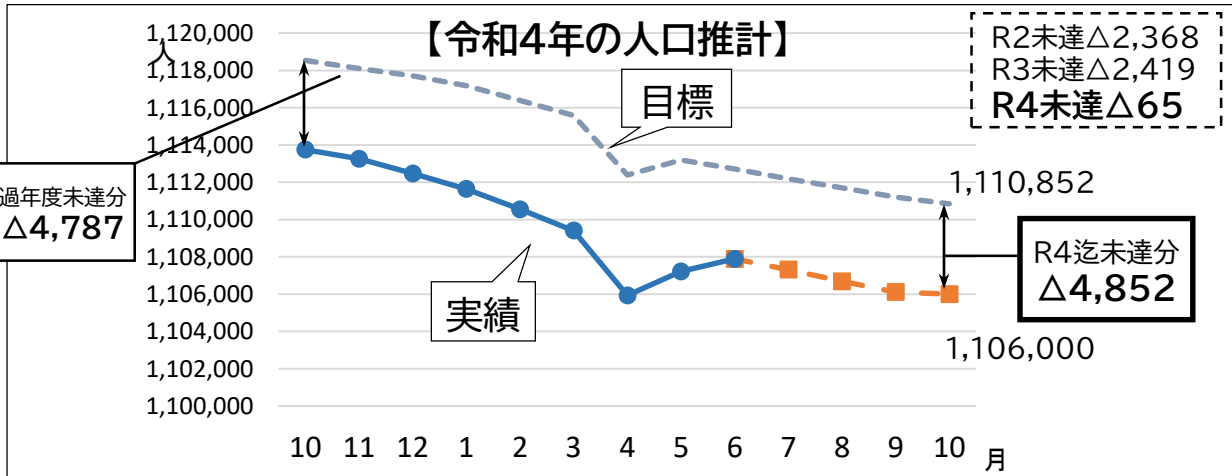
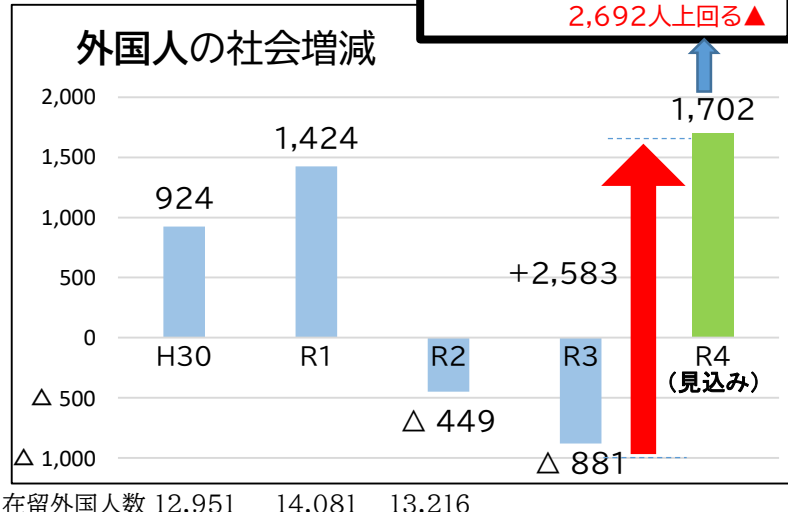
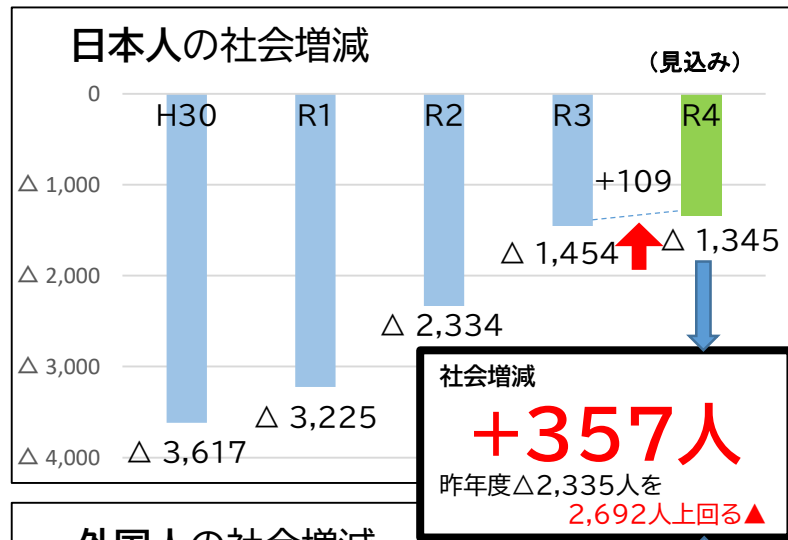
# 人口動態等について

令和4年10月1日の推計人口について(令和4年6月1日時点)

- R4年の推計:1,106,000人 (自然増減△8,106 (出生 7,032、死亡△15,138)、社会増減 357)
- 移住者の増加や入国制限緩和による外国人増加により、平成19年以来15年ぶりの転入超過となる見通し

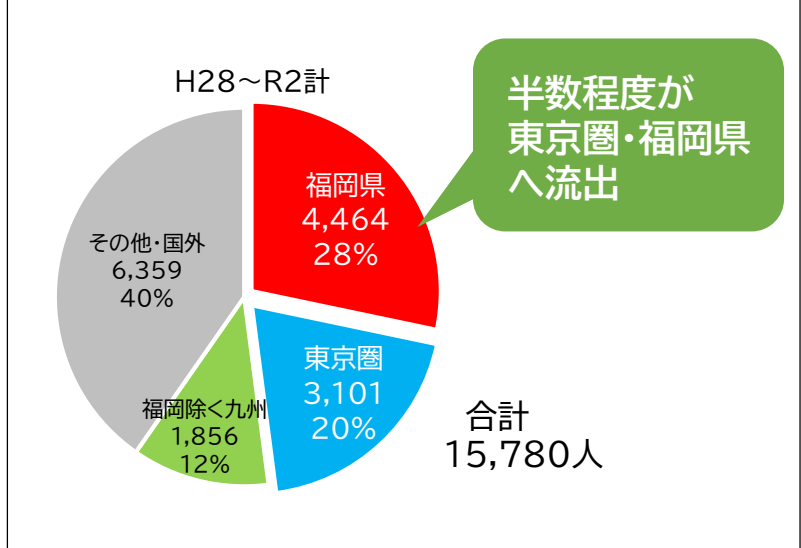
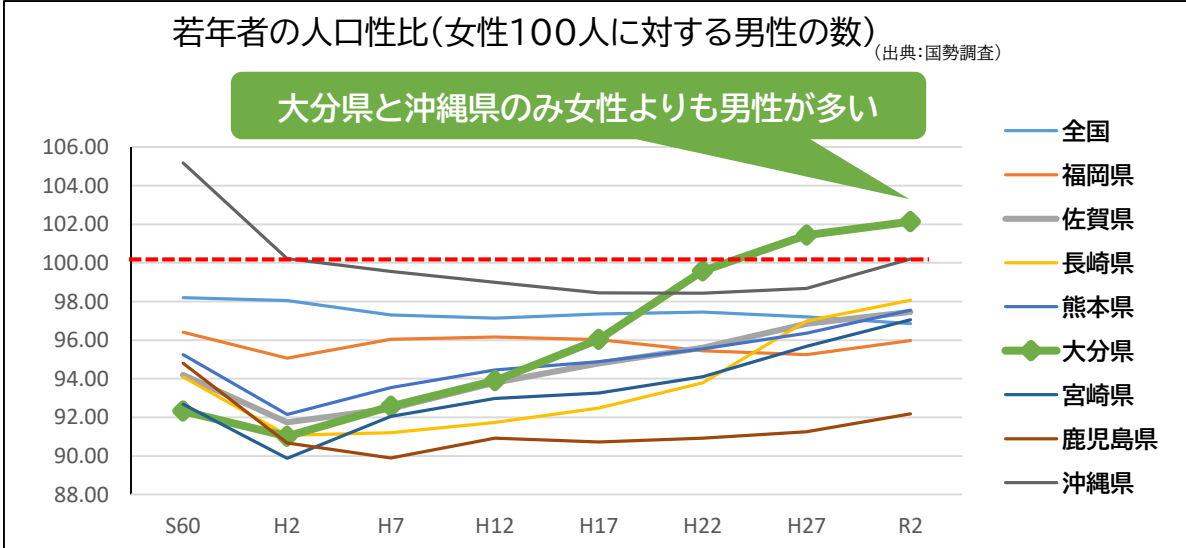
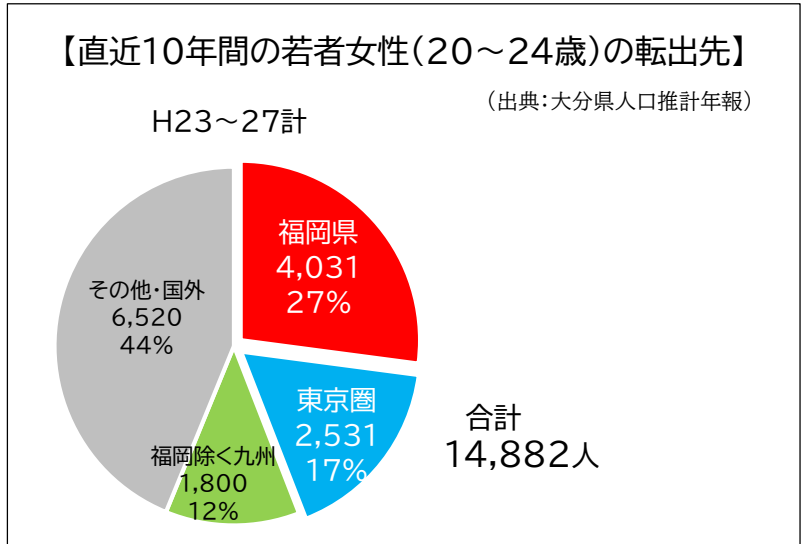
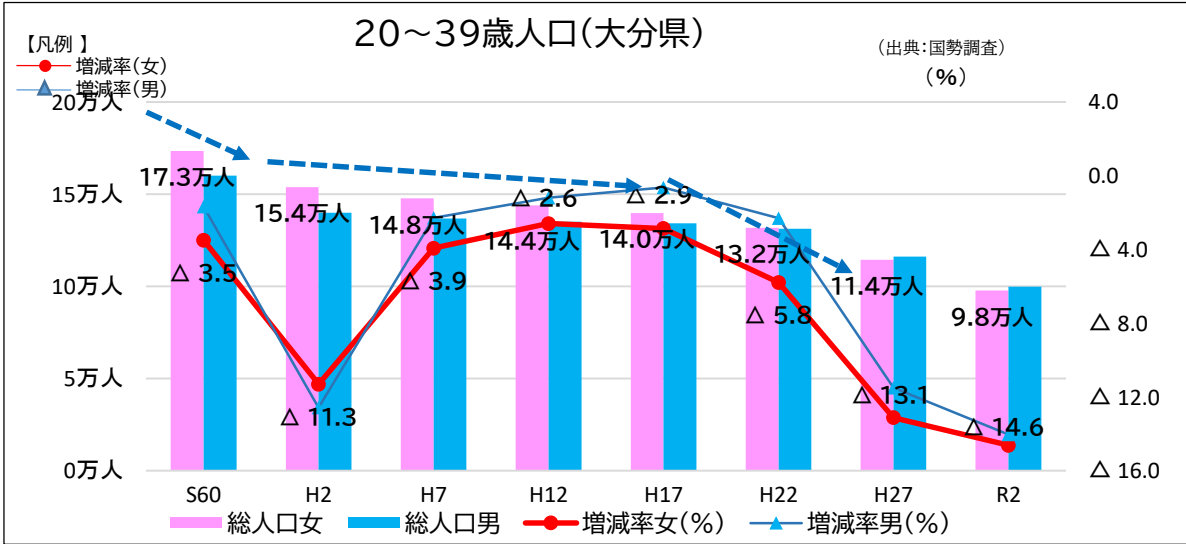
## 【人口の増減要因】

自然動態		社会動態	
増加要因	減少要因	増加要因	減少要因
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・婚姻件数の減 R3-R2 △289組 (△6.6%)</li> <li>・主な出産世代(20~39歳)の女性人口の減 R3-R2 △2,541(△2.5%)</li> <li>・死亡者の増 コロナ禍による活動量低下が影響している可能性 75歳以上死亡者 R3-R2 +534人(4.6%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人の増 R4.3からの入国制限の緩和による増</li> <li>学 生 1,530人 技能実習生 1,200人</li> </ul>	
		<p>出生数</p> <p><b>7,032人</b></p> <p>昨年度7,317人を 285人下回る▼</p>	



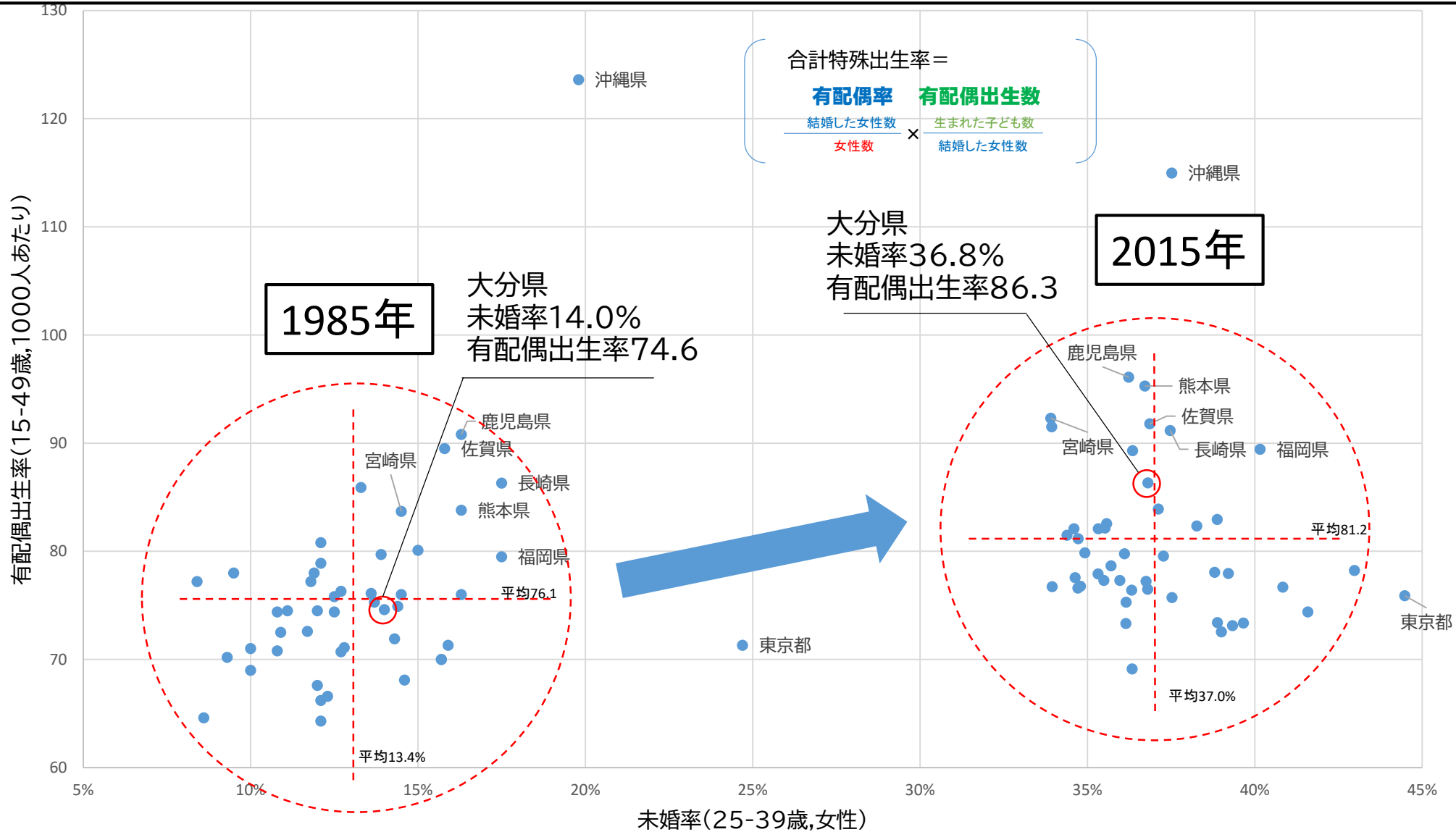
# 〔社会動態〕若年女性の流出の現状

- 令和2年国勢調査における本県の若年女性(20~39歳)人口は9.8万人で、前回調査に比べ大きく減少(△1.6万人、△14.6%)し、減少幅が拡大(△13.1%→△14.6%)
- 出生数の減少に加え、県外からの転入者の伸び悩みや若者の都市部への転出拡大が主な要因と考えられる



# 〔自然動態〕未婚率と有配偶出生率

○30年前と比較して有配偶出生率は上昇しているものの、それ以上に未婚率が上昇していることが、出生数減少の大きな要因のひとつと考えられる



# 出生数の増加に向けて

- 令和4年度大分県人口ビジョン目標出生数8,366人に対して、推計出生数は7,032人であり、目標数を1,334人下回る見込み
- 出生数増加のためには、出会い応援等の自然増対策に加え、若年女性の流入・定着促進といった社会増対策の強化も必要

## 社会増対策

### 若年女性の流入・定着の促進

女性が安定かつ十分な収入を得られる仕事の確保や、キャリア形成支援、柔軟な働き方の推進等、女性にとって働きがいのある職場づくりの支援

地域に根強い固定的な性別役割分担意識や、無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)の解消

### 若者の声



自分たちが興味を持てる仕事がない。(dot. 利用者の声)

これまで漠然と都会への憧れを持っていた学生が、地方・地元での就職に目が向きやすくなった。(dot. 担当者の声)

女性は家にいるものだと根強く残っているので、そういうのは苦しいかなと思う。(内閣府調査より)

## 自然増対策

### 出会い応援の強化

若者が気軽に利用できるマッチングアプリ等を活用した出会い応援や、企業・団体と連携した出会いの場の創出

### 安心して子どもを産み育てられる環境の整備

経済的に余裕のない若い世代でも積極的に子どもを産み育てたいと思うことのできるよう、妊娠や出産、子育てに対する経済的支援の充実

将来の妊娠を考えながら自分たちの生活や健康に向き合う機会の創出や、ライフデザイン形成への支援

### 若者の声



結婚したいのに、出会いをどこで求めればよいかわからない。職場に若い男女がいない。(出会いサポートセンター利用者の声)

異性へのアプローチの仕方がわからない。お見合いで断られるが、何が悪いかわからない。(出会いサポートセンター利用者の声)

子育てや教育にお金がかかりすぎて、理想の子どもの数を持っていない。(子ども・子育て県民意識調査)

産婦人科に行くタイミングがわからない。不妊治療費用にどれぐらいかかるかわからなくて不安。(不妊・不育相談センター利用者の声)